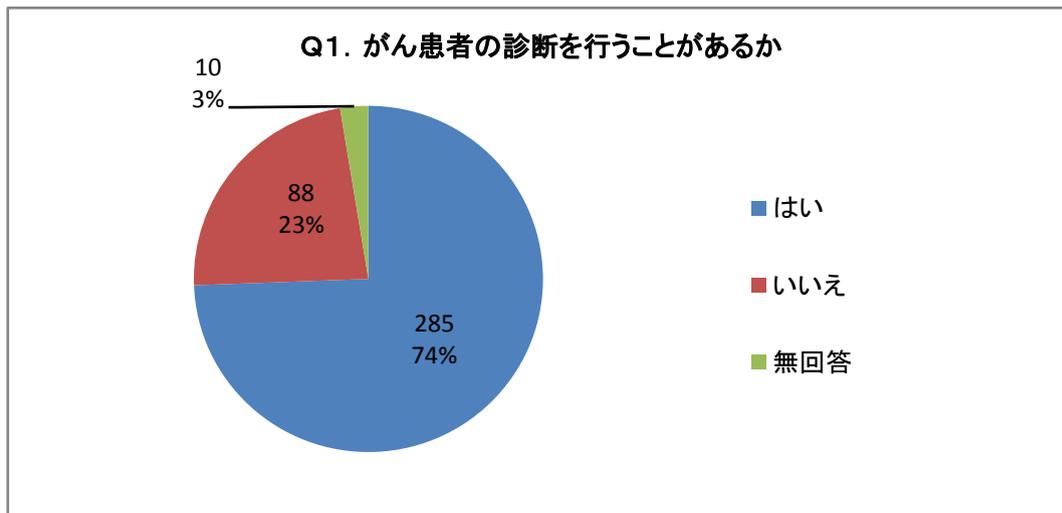


がんにおける病診連携に関するアンケート調査結果報告 (平成23年2月実施)

- 1 調査目的 地域連携クリティカルパスによるがん診療の連携体制を構築し、今後の活動の参考とする。
- 2 調査対象 香川県下の医療機関
- 3 実施時期 平成23年2月
- 4 調査方法 香川県下の医療機関に調査票を配付
- 5 回答状況 回答数383(配付数793, 回答率48.3%)
- 6 調査結果 設問ごとの調査結果は次のとおり。

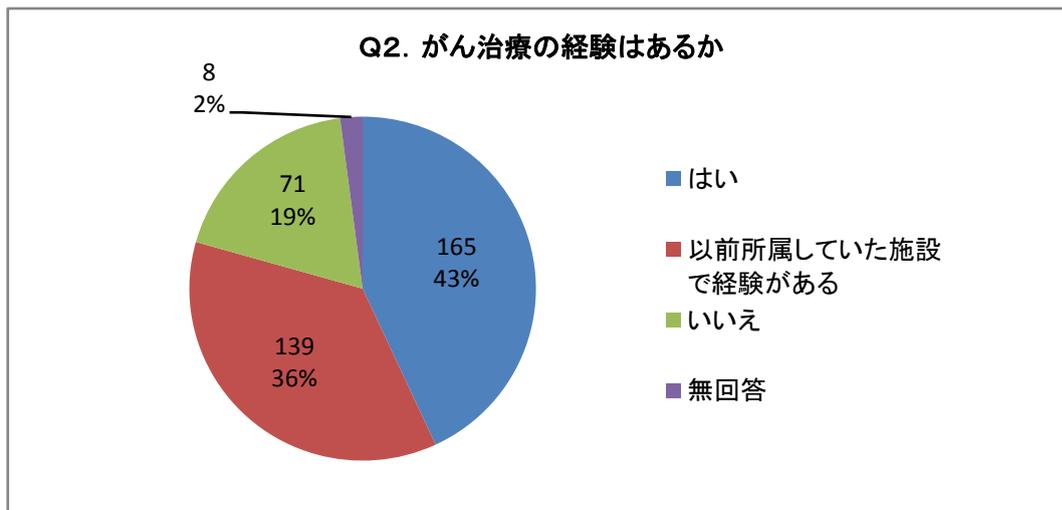
設問1. がん患者の診断を行うことがありますか。

- 本設問に対する回答総数は373であった。
- がん患者の診断を行う者は、回答者全体の76%であった。

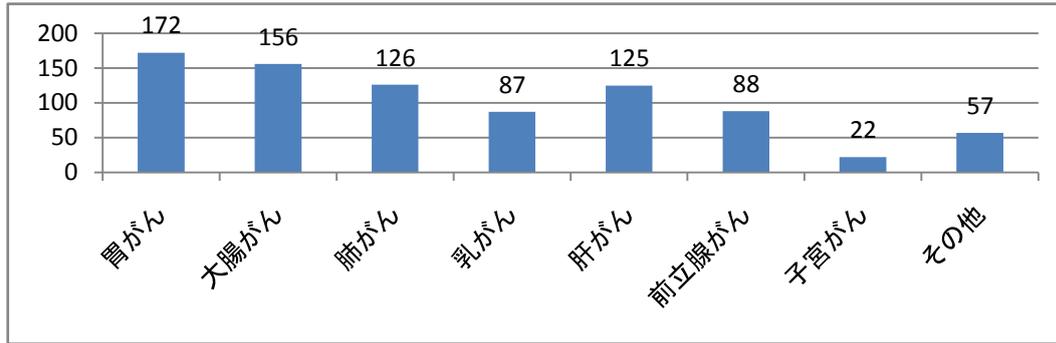


設問2. がん治療の経験はありますか。

- 本設問に対する回答総数は375であった。
- がん治療の経験がある者は、回答者全体の81%であった。

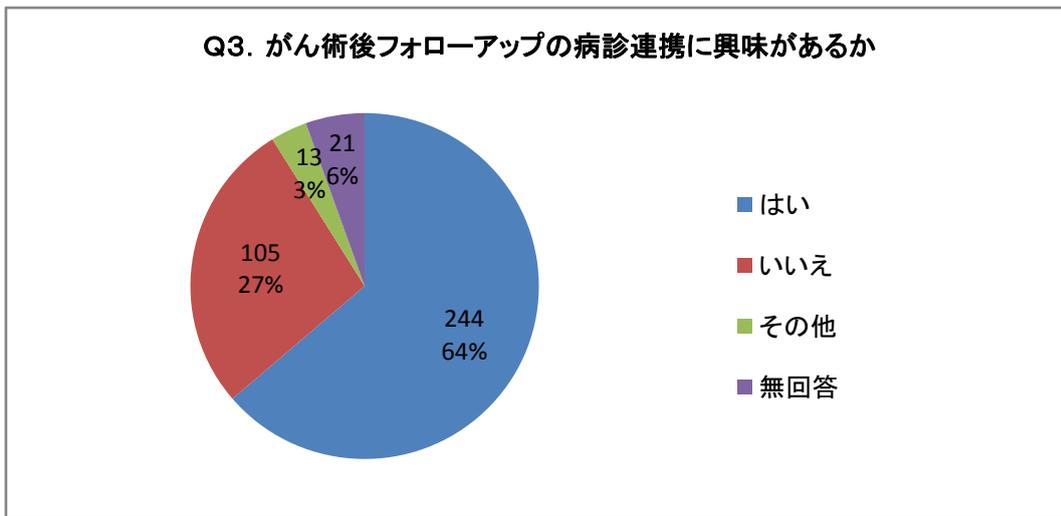


がん腫



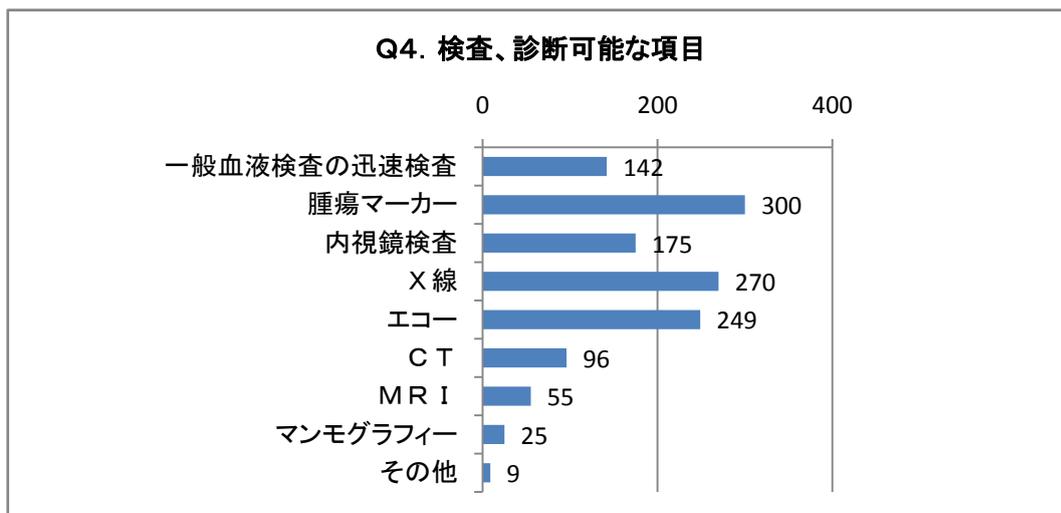
設問3. がん術後フォローアップの病診連携に興味がありますか。

- 本設問に対する回答総数は362であった。
- がん術後フォローアップの病診連携に興味がある者は、回答者全体の67%であった。



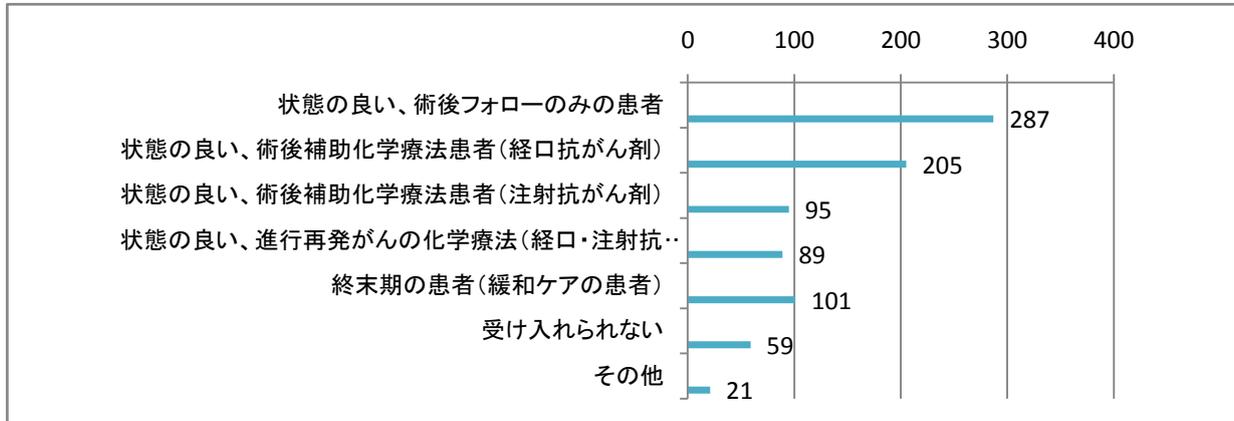
設問4. 検査、診断可能な項目を教えてください。

- 本設問に対する回答総数は1,321であった。
- 一番多い検査項目は腫瘍マーカーで、回答者全体の23%であった。



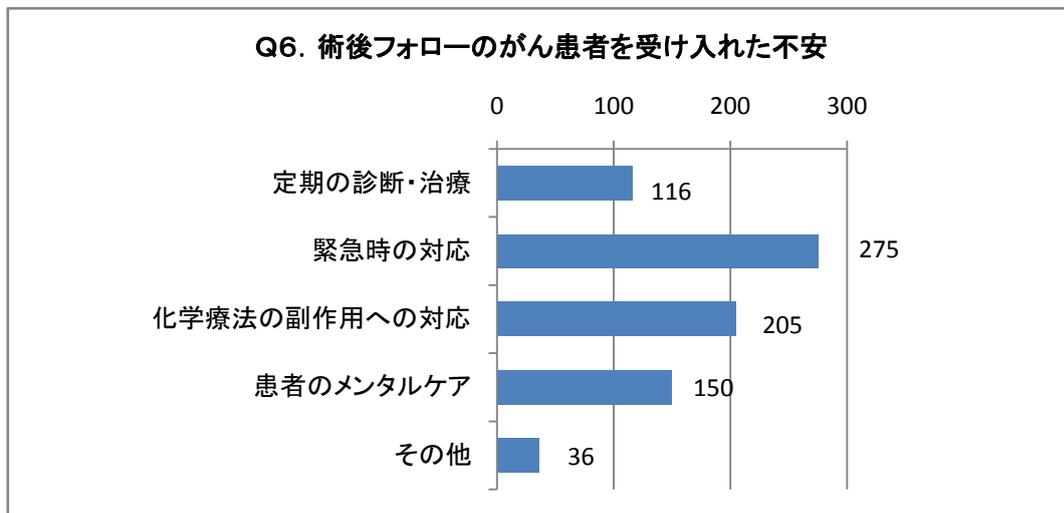
設問5. どの程度の状態のがん患者なら逆紹介で受け入れることが可能ですか。

- 本設問に対する回答総数は857であった。
- 状態の良いがん患者なら逆紹介で受け入れることが可能であるのは、回答者全体の79%であった。



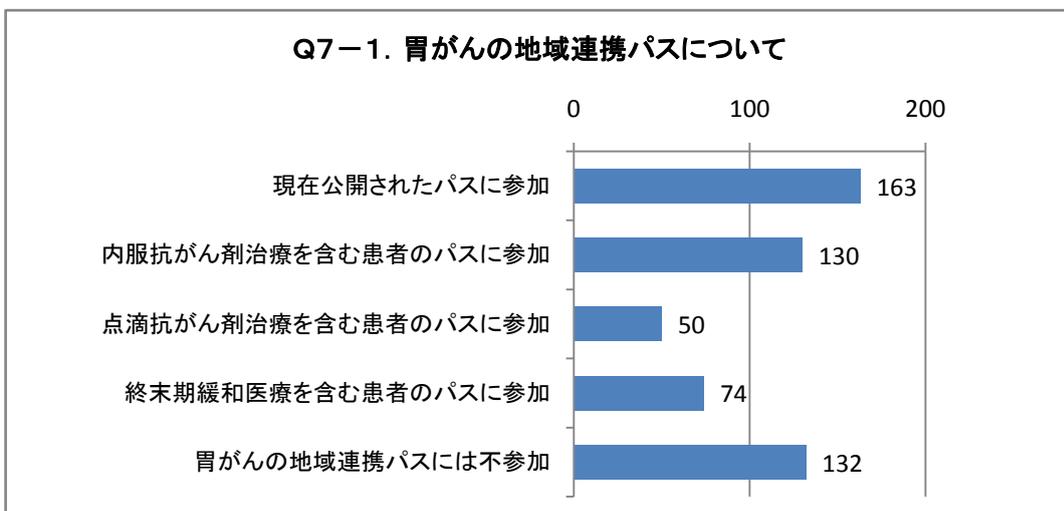
設問6. 術後フォローのがん患者を受け入れた場合の不安な点

- 本設問に対する回答総数は782であった。
- 術後フォローのがん患者を受け入れた場合の不安な点は緊急時の対応で、回答者全体の35%であった。



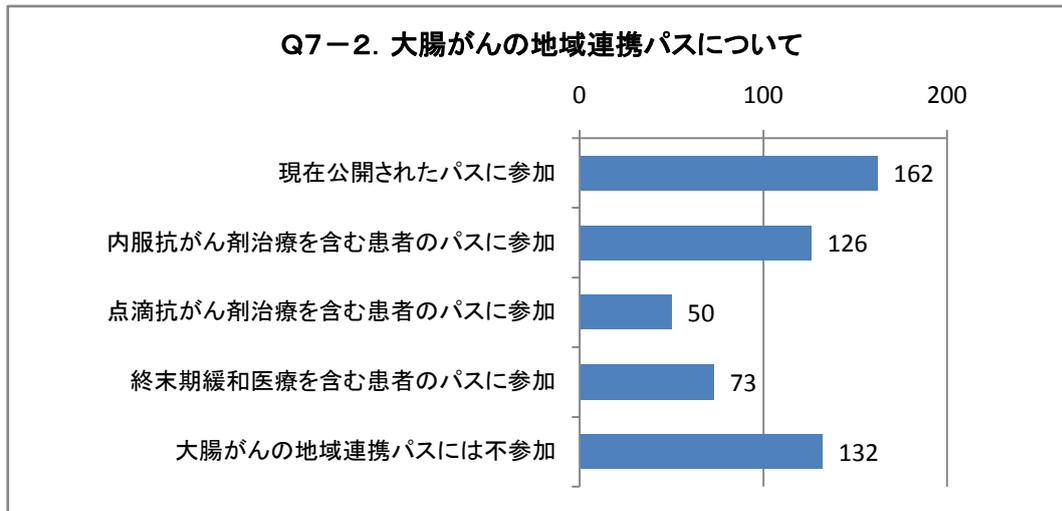
設問7-1. 胃がんの地域連携パスについて

- 本設問に対する回答総数は549であった。



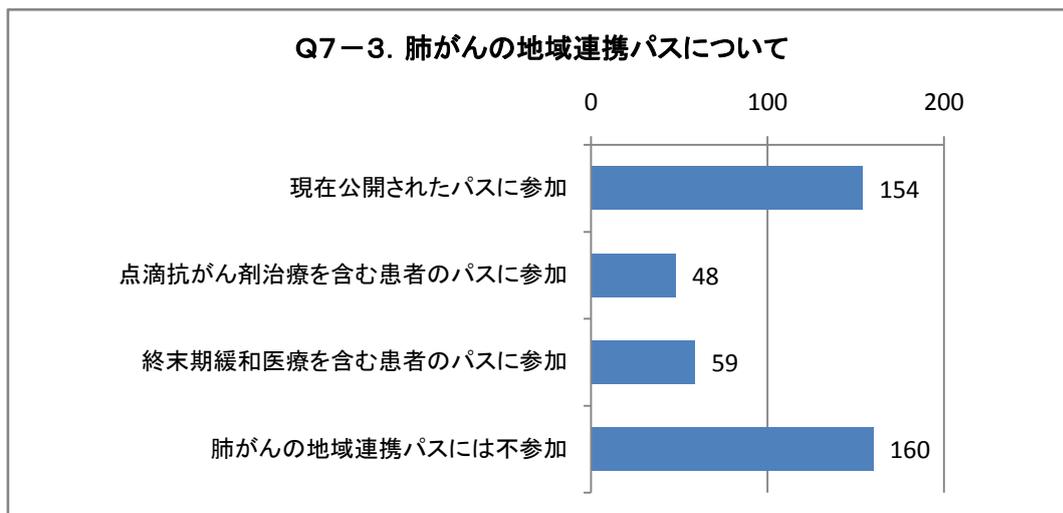
設問 7-2. 大腸がんの地域連携パスについて

○ 本設問に対する回答総数は543であった。



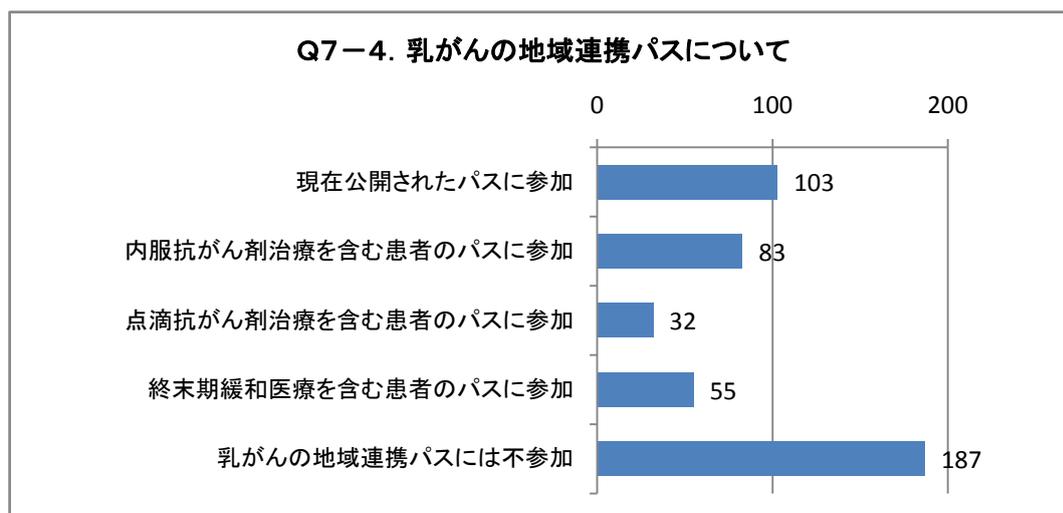
設問 7-3. 肺がんの地域連携パスについて

○ 本設問に対する回答総数は421であった。



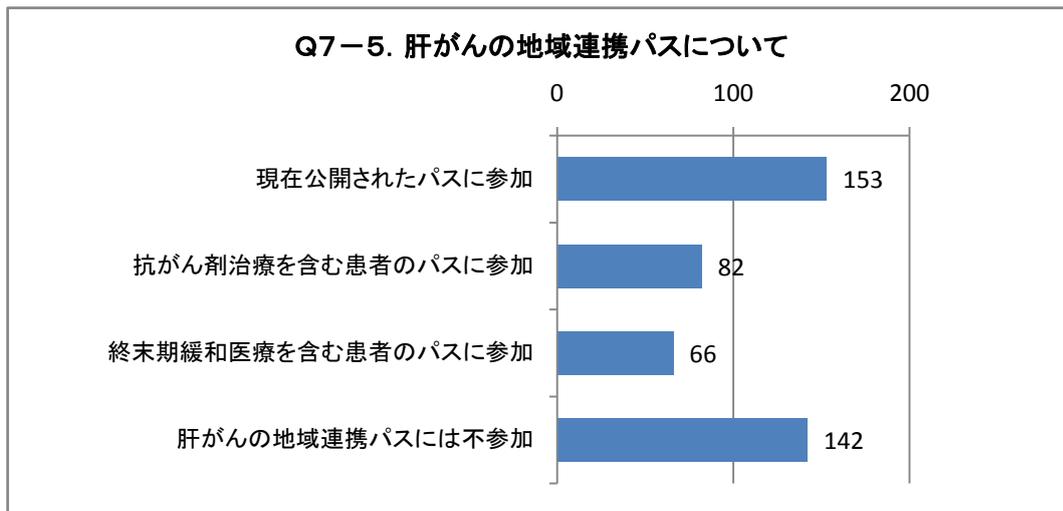
設問 7-4. 乳がんの地域連携パスについて

○ 本設問に対する回答総数は460であった。



設問 7-5. 肝がんの地域連携パスについて

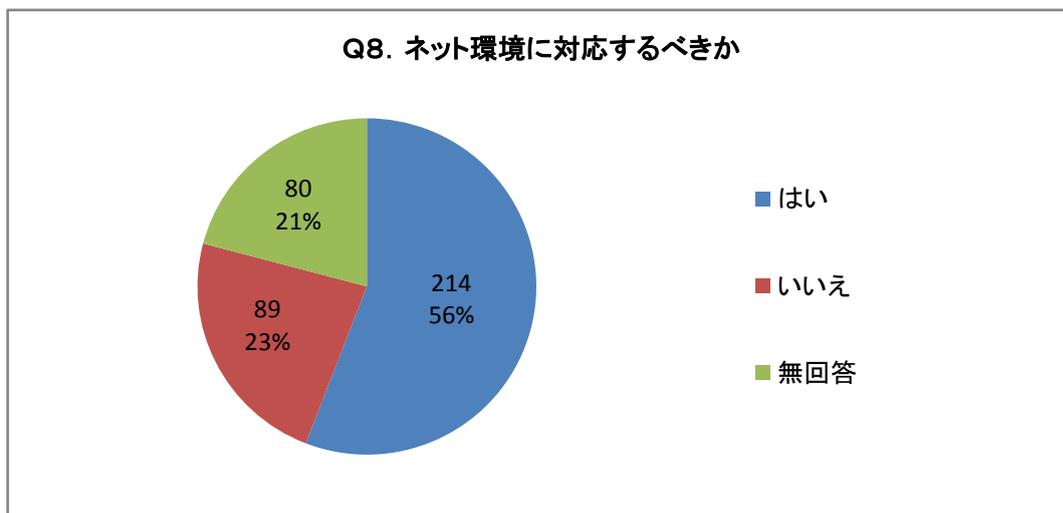
○ 本設問に対する回答総数は443であった。



設問 8. がんの地域連携パスも、今後K-MIXなどのネット環境に対応するようになると
思いますか。

○ 本設問に対する回答総数は303であった。

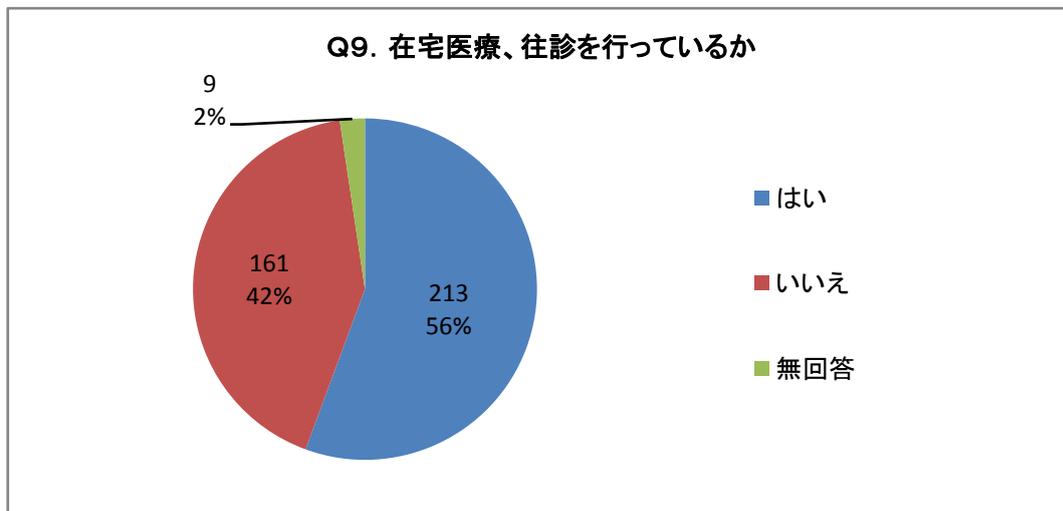
○ ネット環境に対応するようになると考えている者は、回答者全体の71%であった。



設問 9. 在宅医療、往診を行っていますか。

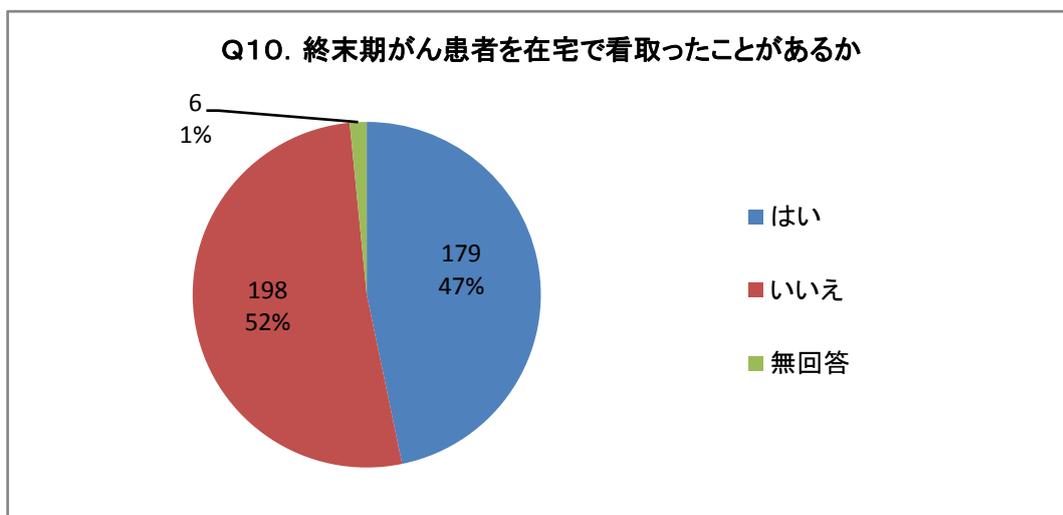
○ 本設問に対する回答総数は374であった。

○ 在宅医療、往診を行っている者は、回答者全体の57%であった。



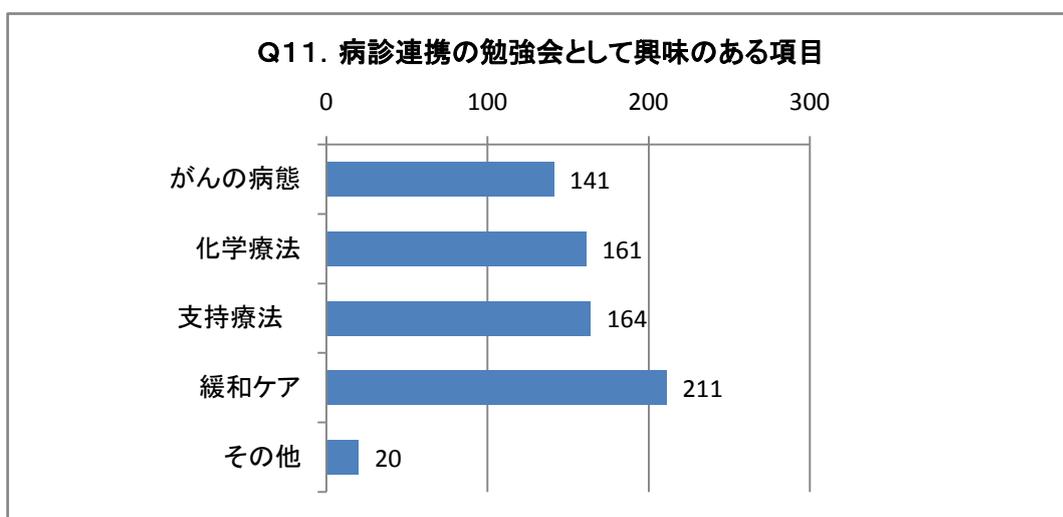
設問 10. 終末期がん患者を在宅で看取ったことがありますか。

- 本設問に対する回答総数は377であった。
- 終末期がん患者を在宅で看取ったことがある者は、回答者全体の47%であった。



設問 11. 病診連携の勉強会として興味のある項目をお教えてください。

- 本設問に対する回答総数は697であった。
- 病診連携の勉強会として興味のある項目は緩和ケアで、回答者全体の30%であった。



設問 12. 4疾患5事業で、がん以外の領域で興味がある分野は

- 本設問に対する回答総数は703であった。
- 4疾患5事業で、がん以外の領域で興味がある分野は糖尿病で、回答者全体の30%であった。

